

● ブロック塀の自己点検

みなさんの回りにあるブロック塀は、見かけはしっかりしていても安全性にかけるものがたくさんあります。危険なブロック塀をなくすよう、ブロック塀の自己点検を行いましょう。

ブロック塀※の点検

※コンクリートブロック内部に鉄筋が釣り合いよく配置され、モルタルやコンクリートで充填し補強された塀



該当する項目の□にチェックしてください。

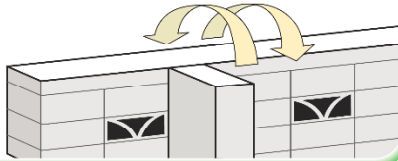
なお、その他の組構造の塀（石材、レンガ、コンクリートブロック（鉄筋の補強のないもの）などをモルタルで積み重ねた塀）については★の項目の該当はありませんが、次のような制限があります。

- 高さは1.2m以下とすること
- 壁の厚さは高さの1/10以上とすること
- 控壁は長さ4m以内ごとに設けること
- 基礎の根入れ深さは20cm以上とすること

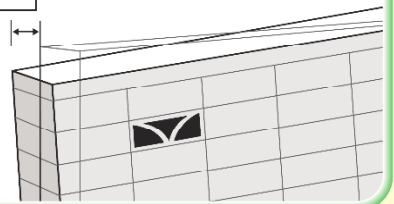


ぐらつきがある。

※確認をする場合には、周囲に人がいないことを確認し、必ず前方へ押して下さい。



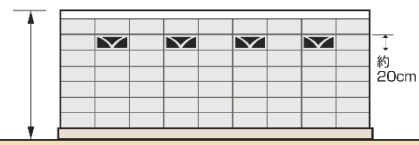
傾きがある。



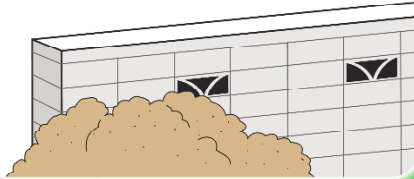
★ 高さが2mを超える。

（コンクリートブロックの厚さが15cm以上の場合には、2.2mを超える塀）

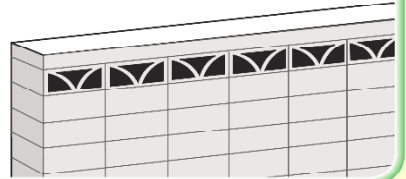
★コンクリートブロック1個の高さは約20cm



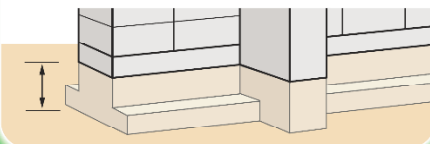
コンクリートブロック部分に土圧がかかっている。



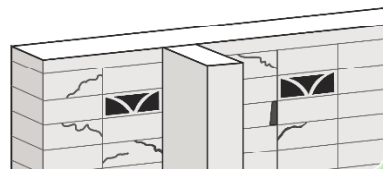
★ すかしブロックが連続で使用されている。



★ 基礎の根入れ（土に入っている部分）の深さが30cm未満である。



亀裂、目地われがある。



★ 控壁がない、または控壁の間隔が3.4mを超える。

★控壁は「壁面から塀の高さの1/5以上突出すること。」
★コンクリートブロック1個の長さは約40cm
※高さが1.2m以下の塀の場合には、控壁の規制はうけません。



上記の項目に一つでも該当していれば、そのブロック塀は安全性に欠けると考えられますので、改善等を行う必要があります。

上の項目以外にも
このような場合には注意が必要です

ブロック塀の上に工作物が設けてある。

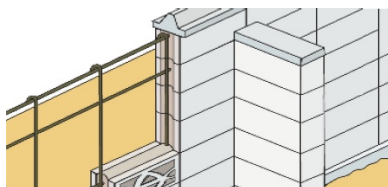
ブロック塀の下に擁壁（土留め）がある。

ブロック塀を造ってから20年以上経過している。

● 専門家に相談しましょう



塀に鉄筋が入っていない。



塀の中に直径9mm以上の鉄筋が、縦横とも80cm間隔以下で配筋されており、縦筋は壁頂部および基礎の横筋に、横筋は縦筋にそれぞれかぎ掛けされていますか。